

自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) とCDP質問書

角田恵里

(CDP Worldwide-Japan シニアマネジャー)

2022年11月25日



アジェンダ



▼はじめに

▼TNFD

▼CDP質問書

▼CDPレポート「CDPデータを使って自然リスクと機会を評価する」の概要

▼CDPの対応と方向性

はじめに

TNFD：自然関連財務情報開示に関するタスクフォース

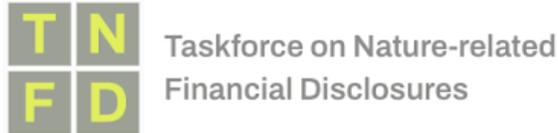


- ▼ 組織が進化する自然関連リスクを報告し、対処するためのリスク管理および情報開示の方法を標準化するためのフレームワーク
- ▼ 市場主導型 - 34社の企業タスクフォースメンバーがリーダーシップをとりつつ、学識経験者や市民団体にサポートされている。
- ▼ 2022年3月にベータ版第1版をリリース。
 - ▼ 自然を理解するための基本的概念と定義
 - ▼ 情報開示に関するTNFDの提言（草稿）
（TCFDに基づく）
 - ▼ LEAPのプロセス
- ▼ 第2版を2022年6月にリリース済。
- ▼ 第3版を2022年11月にリリース済。
- ▼ 2023年3月にベータ版第4版をリリース予定、2023年6月までコンサルテーション。
- ▼ 2023年9月までに最終版（第1版）を完成予定

TNFD：自然関連財務情報開示に関するタスクフォース



情報開示に関するTNFDの提言 – v. 0.1 2022年3月リリース



ガバナンス

自然関連リスクと機会に関する組織のガバナンスを開示する。

推奨された開示

- A. 自然関連リスクと機会に関する取締役会の監視について説明する。
- B. 自然関連リスクと機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。

戦略

自然関連リスクと機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際および潜在的な影響を、そのような情報が重要である場合に開示する。

推奨された開示

- A. 組織が特定した、短期、中期、長期の自然関連リスクと機会について説明する。
- B. 自然関連リスクと機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える影響について説明する。
- C. 様々なシナリオを考慮しながら、組織の戦略のレジリエンスについて説明する。
- D. 完全性の低い生態系、重要性の高い生態系、または水ストレスのある地域との組織の相互作用について説明する。

リスク管理

組織が自然関連リスクをどのように特定し、評価し、管理しているかを開示する。

推奨された開示

- A. 自然関連リスクを特定し評価するための組織のプロセスについて説明する。
- B. 自然関連リスクを管理するための組織のプロセスについて説明する。
- C. 自然関連リスクの特定、評価、管理のプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する。

指標と目標

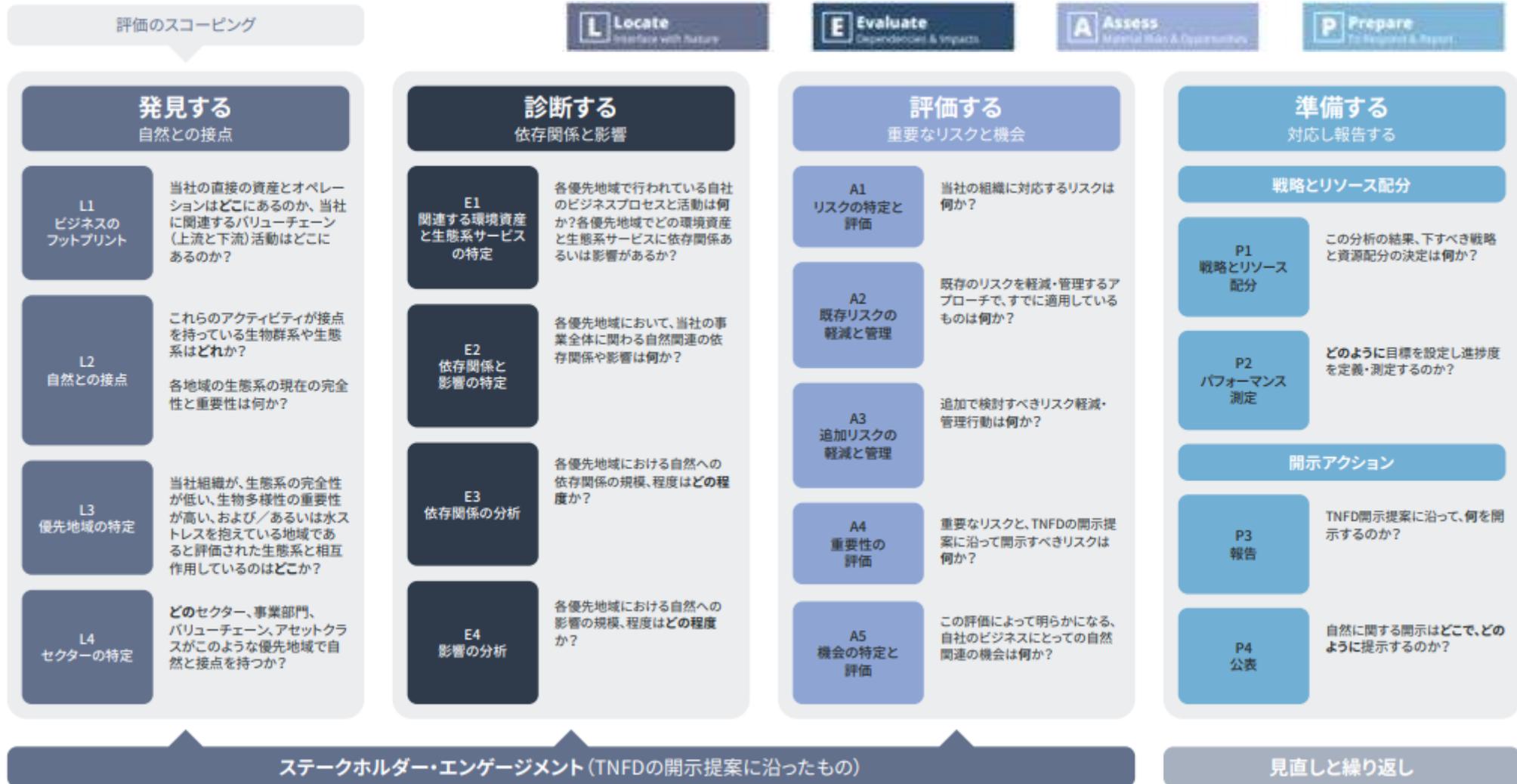
関連する自然関連リスクと機会の評価と管理に使用される指標と目標を、そのような情報が重要である場合に開示する。

推奨された開示

- A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、自然関連リスクと機会を評価し管理するために使用している指標を開示する。
- B. スコープ1、スコープ2、および必要に応じてスコープ3の温室効果ガス (GHG) 排出量と関連するリスクを開示する。]* *TNFDが調整を検討中
- C. 組織が自然関連リスクと機会を管理するために用いている目標と、目標に対するパフォーマンスについて説明する。

TNFD：自然関連財務情報開示に関するタスクフォース

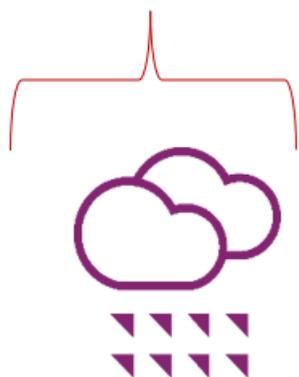
TNFD LEAP アプローチ - v. 0.1 2022年3月リリース



CDP質問書と自然関連情報開示



生物多様性質問群



気候変動



水セキュリティ



フォレスト

自然に関する情報開示

木材

パーム油

畜牛品

大豆

カカオ、ゴム、コーヒー

金属・鉱業・石炭企業向け
(生物多様性関連) 質問群

CDPフォレスト質問書対象企業



▼CDPは、フォレスト質問書対象企業を以下をもとに判断しています。

1. 森林影響評価（Forest impact assessment）
2. 森林影響レーティング（Forest impact rating）
3. 売上閾値（Revenue threshold）
4. その他：Global Canopy's Forest 500, SPOTT Index等
5. 採掘関連企業

▼詳しくは、以下をご参照ください。

[CDP's Forests Sample – Investor Request 2021](#)

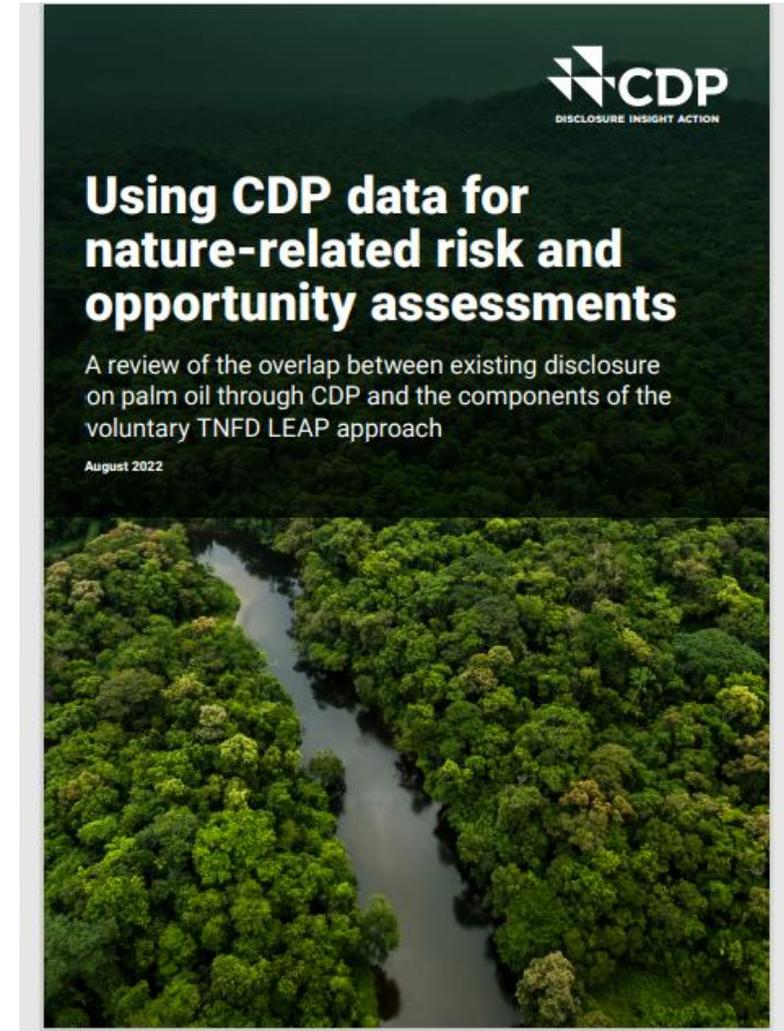
CDPフォレスト質問書の構成



レポートの概要

CDPデータを使って自然リスクと機会を評価する

- ▼ 2021年CDPフォレスト質問書とTNFD LEAP アプローチ（v.0.1）の構成要素を比較し、共通点と相違をレビュー。
- ▼ 2021年のパーム油に関する開示情報をもとに、企業の開示内容がどの程度、要求事項を満たしているかを分析。
- ▼ 両者にはかなりの共通点があり、CDPフォレスト質問書回答企業はTNFD開示にも有用である。
- ▼ しかし、LEAPプロセスに従うには、それだけでは足りない。
- ▼ 報告書リンク：[英語版オリジナル](#)、[日本語サマリー](#)



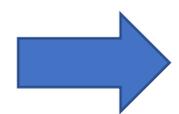
2021年CDPフォレスト質問書のLEAPフレームワーク (v. 0.1) ヒートマップ



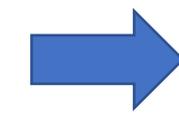
2021年CDPフォレスト質問書のLEAPフレームワークとのおおよその整合性を示したヒートマップ

現在は非整合 一部整合 大きく整合

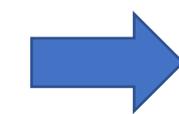
L1 ビジネスのフットプリント	L2 自然との接点	L3 優先地域の特定	L4 セクターの特定	
当社の直接の資産とオペレーションはどこにあるのか、当社に関連するバリューチェーン（上流と下流）活動はどこにあるのか？	これらのアクティビティが接点を持っている生物群系や生態系はどれか？ 各地域の生態系の現在の完全性と重要性は何か？	当社組織が、生態系の完全性が低い、生物多様性の重要性が高い、と評価されている生態系と接しているのはどこか？	どのセクター、事業部門、バリューチェーン、アセットクラスがこのような優先地域で自然と接点を持つか？	
E1 優先地域ごとの関連する環境資産と生態系サービスの特定		E2 優先地域ごとの依存関係と影響の特定		
E3, E4: 依存性・影響度分析				
各優先地域で行われている自社のビジネスプロセスと活動は何か？各優先地域でどの環境資産と生態系サービスに依存関係あるいは影響があるか？	各優先地域において、当社の事業全体に関わる自然関連の依存関係や影響は何か？	各優先地域における自然への依存関係の規模、程度はどの程度か？		
A1 リスクの特定	A2 現在の自然界のリスク管理の取り組みに対する評価	A3 追加的なリスク対処法の特定	A4 重要性の評価	A5 機会の特定と評価
当社の組織に対応するリスクは何か？	既存のリスクを軽減・管理するアプローチで、すでに適用しているものは何か？	追加で検討すべきリスク軽減・管理行動は何か？	重要なリスクと、TNFDの開示提案に沿って開示すべきリスクは何か？	この評価によって明らかになる自社のビジネスにとっての自然関連の機会は何か？
P1 戦略とリソース配分	P2 目標設定とパフォーマンス管理	P3 レポート	P4 公表	
この分析の結果、下すべき戦略と資源配分の決定は何か？	どのように目標を設定し進捗度を定義・測定するのか？	TNFD開示提案に沿って、何を開示するのか？	自然に関する開示はどこまで、どのように開示するのか？	



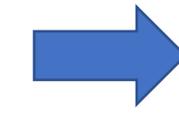
Locate (発見する)



Evaluate (診断する)



Assess (評価する)



Prepare (準備する)

2021年CDPフォレスト質問書のLEAPフレームワーク (v. 0.1) ヒートマップ



LEAPアプローチの「L: Locate」 (発見する) と2021年CDPフォレスト質問書

L1 ビジネスのフットプリント	L2 自然との接点	L3 優先地域の特定	L4 セクターの特定
当社の直接の資産とオペレーションはどこにあるのか、当社に関連するバリューチェーン (上流と下流) 活動はどこにあるのか?	これらのアクティビティが接点を持っている生物群系や生態系はどれか? 各地域の生態系の現在の完全性と重要性は何か?	当社組織が、生態系の完全性が低い、生物多様性の重要性が高い、と評価されている生態系と接しているのはどこか?	どのセクター、事業部門、バリューチェーン、アセットクラスがこのような優先地域で自然と接点を持つか?

F1*, F6*** (F2**)	F1	該当質問なし	F1, F6
-------------------	----	--------	--------

取り組み易いところでなく、危機的な生態系を優先して取り組むことが鍵!

<ご参考>

- ▼ 2022年フォレスト質問書
- ▼ L1: 大きく整合
- ▼ L2とL3: 非整合

現在は非整合

一部整合

大きく整合

*F 1: 現在の状況 ** F2: リスク特定手順 ***F6: 実践

2021年CDPフォレスト質問書のLEAPフレームワーク (v. 0.1) ヒートマップ



LEAPアプローチの「E: Evaluate」(診断する)とCDPフォレスト質問書

E1 優先地域ごとの関連する環境資産と生態系サービスの特定		E2 優先地域ごとの依存関係と影響の特定	E3、E4：依存性・影響度分析	
各優先地域で行われている自社のビジネスプロセスと活動は何か？各優先地域でどの環境資産と生態系サービスに依存関係あるいは影響があるか？		各優先地域において、当社の事業全体に関わる自然関連の依存関係や影響は何か？	各優先地域における自然への依存関係の規模、程度はどの程度か？	
該当質問なし		F1*, F2**, F4***	F1	F1

今後は、自社への影響だけでなく、生態系への影響の特定が必要！



*F1: 現在の状況 **F2: リスク特定手順 ***F4: ガバナンス

<ご参考>

- ▼ 2022年質問書
 - ▼ E1：非整合
 - ▼ E2：大きく整合
 - ▼ E3～4：一部整合

2021年CDPフォレスト質問書のLEAPフレームワーク (v. 0.1) ヒートマップ



LEAPアプローチの「A: Assess」 (評価する) とCDPフォレスト質問書

A1 リスクの特定	A2 現在の自然界の リスク管理の取組み に対する評価	A3 追加的なリス ク対処法の特定	A4 重要性の評価	A5 機会の特定と評価
当社の組織に対応するリ スクは何か？	既存のリスクを軽減・管 理するアプローチで、す でに適用しているものは 何か？	追加で検討すべきリス ク軽減・管理行動は何 か？	重要なリスクと、 TNFD の開示提案に 沿って開示すべき リスクは何か？	この評価によって明ら かになる自社のビジネ スにとっての自然関連 の機会は何か？
F1*, F2**, F3***	F1, F3	F1, F3	F1, F3	

現在は非整合

一部整合

大きく整合

*F 1 : 現在の状況 ** F2 : リスク特定手順 ***F3: リスクと機会

2021年CDPフォレスト質問書のLEAPフレームワーク (v. 0.1) ヒートマップ



LEAPアプローチの「P: Prepare」 (準備する) とCDPフォレスト質問書

P1 戦略とリソース配分	P2 目標設定とパフォーマンス管理	P3 レポート	P4 公表
この分析の結果、下すべき戦略と資源配分の決定は何か？	どのように目標を設定し進捗度を定義・測定するのか？	TNFD開示提案に沿って、何を開示するのか？	自然に関する開示はどこで、どのように提示するのか？
F4*, F5**	F6***	-	-

現在は非整合

一部整合

大きく整合

*F4: ガバナンス ** F5: 事業戦略 ***F6: 実践

TNFD LEAPアプローチと2021年フォレスト質問書： 比較レビュー結果



- ▼ CDP が 10 年以上にわたって企業に質問してきたことと、LEAP プロセスが今後企業に助言することの間に、大きな整合性があることを示された。よって、CDP のフォレスト質問書を通じて開示されたデータの多くは、LEAP の評価でも使用することが可能。

- ▼ しかしながら、LEAP プロセスで規定されているような強固な自然関連リスクと機会の評価は、CDP が要求する以上の深さと粒度を必要とし、現在 CDP がカバーしていない分野のデータも必要となる。
 - ▼ 原産地（プランテーション等）までの追跡能力（LEAPアプローチのLocateの一部）
 - ▼ 事業サイトに接する生態系の完全性・重要性の評価
 - ▼ 企業が自然に与える影響と依存のバリューチェーン全体の包括的な理解

- ▼ CDP への報告（特にフォレスト質問書に関しては）負担と感じている企業も多い中、TNFDは、環境データを理解し管理するための十分な情報収集と、市場への報告の負担のバランスを注意深く管理する必要がある。

TNFD LEAPアプローチとフォレスト質問書： CDPにとっての今後の課題



より広範なリスク評価を行わないことによるリスクがある。CDP開示枠組みの拡大へ。

▼ CDP フォレスト質問書と LEAP プロセスの違い：

▼ CDPフォレスト質問書：サプライチェーンにおける森林減少の撲滅に向けた企業の進捗に関する具体的な情報を提供

▼ LEAP プロセス：企業が自然環境とどのように相互作用しているか、これらの関係がどの程度管理されているか、これらのデータをどのように市場へ報告するかについて、包括的な概要を提供

▼ 将来的には、CDPは、より広範な自然関連のリスクと機会を捉えるために、その開示プラットフォームの拡大をより統合的な方法で実現し、そのための仕組みとしてTNFD LEAPアプローチを使用する予定

(ご参考) 2023年CDP気候変動質問書：C15 生物多様性



- ▼ このモジュールでは、以下の整合性を考慮して質問の追加・修正が予定されています。
 - ▼ IUCN (International Union for Conservation of Nature) との整合性 - 影響と依存性
 - ▼ SFDR (Sustainable Finance Disclosure Regulation) 必須指標との整合性
- ▼ IUCNとの整合：【修正質問】 **(C15.3) 貴社は、バリューチェーン内の生物多様性への影響と依存を評価していますか。**
- ▼ SFDRの必須指標との整合：【新しい質問】 **(C15.4) 生物多様性が影響を受けやすい地域またはその周辺における、報告年における貴社の活動の詳細を提供してください。**
- ▼ 詳細は [こちら](#) を参照。
- ▼ 以上の質問の追加・修正により、2021年フォレスト質問書に含まれていなかった、LEAPアプローチで要求する、**L2 (生態系の状態の把握)**、**L3 (優先地域の特定)**、**E1 (生態系への影響と依存の評価)** などが、カバーされる予定。

(ご参考) 2023年CDPフォレスト質問書：変更点



▼ 2023年に導入または強化される予定のトピック:

1. ランドスケープや管轄区域のアプローチと連動した森林関連目標の設定:

独自のアプローチでなく、より国際的なイニシアティブに整合するアプローチをとっているか、そのアプローチをとった地域からのまた企業による生産・消費コモディティ量などを尋ねる質問が追加

2. 報告年における畜牛品などの土地利用の変化を把握するための質問の追加

3. 製造に使用されたコモディティ (**embedded commodities**) に特化した開示:

コモディティそのものだけでなく、製品の原材料となっているコモディティに特化した質問が追加

4. リスクと調達地域: 調達地域における生態系の変化なども含むリスク評価に関する質問の追加

5. サプライヤーの実績測定: 企業が行う森林減少ゼロなどのコミットメントに従わないサプライヤーの実績を把握するための質問の追加

6. 目標達成の進捗: ランドスケープ・管轄区域の導入地域の進捗にかかる質問の追加

▼ 詳細は[こちら](#)を参照。

CDPの対応と方向性

CDPの2025年戦略

私たちは、惑星の境界と地球システムの全範囲をカバーするため取り組みを拡大する

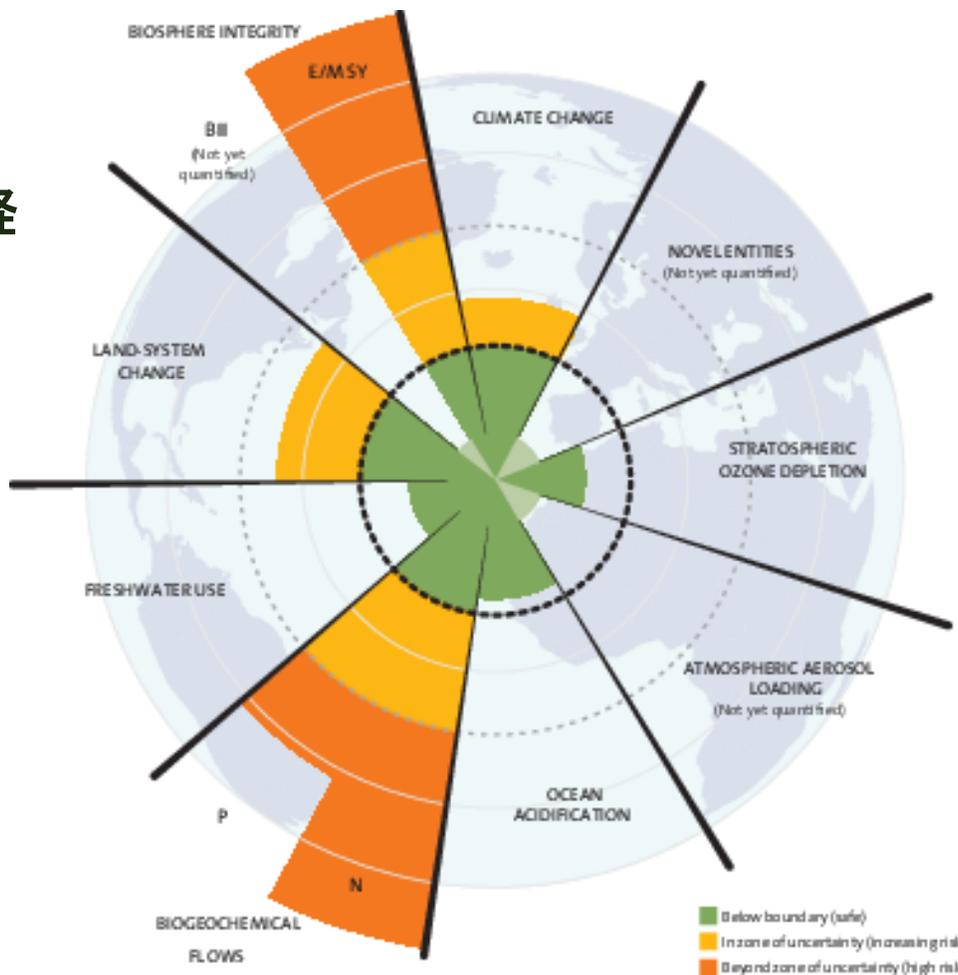
私たちのビジョン

私たちは、長期的に人々と地球が共存しつつ繁栄する経済を望みます。

環境に関する優先事項

CDPの環境に関する優先事項は、世界で達成を目指している以下の目標を支援することです。

- ▼ 1.5°Cの経路に沿った排出量削減
- ▼ 生態系の健全性を回復する

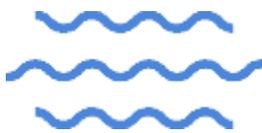


CDP開示枠組みのビジョン

統合性を高めつつ、範囲を拡大



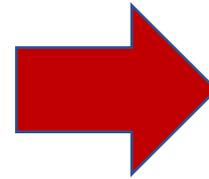
気候変動



水セキュリティ



フォレスト



環境目標

セクター経路

情報開示の枠組み

スコアリング

グローバル開示枠組みのビジョン



CDPは、グローバルに合意されたフレームワークに対して、企業の進捗を追跡し、推進する必要がある。

	気候	自然（目標）
環境目標	1.5度	GBF?* ネイチャー・ポジティブ?
セクター経路	SBTi	ネイチャーSBTs
情報開示の枠組み	TCFD	TNFD
スコアリング	CDP	CDP

* GBF = ポスト2020生物多様性枠組み 24



CDPジャパン事務局

Address: 東京都千代田区大手町2-2-1新大手町ビル3階



Tel: +81 (0)3 6225 2232



www.cdp.net/ja/japan (日本語サイト)



Contact email address:
japan@cdp.net

Q & A

よくある質問



Q. CDP質問書が現状、フォレスト・水セキュリティ・気候変動で分かれておりますが、来年の質問書から統合されるのでしょうか。

A. 質問書の統合については一部報道があり、CDP戦略2025の中で示しているとおおり、その方向ではありますが、2023年については、基本的に従来通りとなります。

Q. LEAPアプローチがCDP水セキュリティ質問書にも反映されるのでしょうか。

A. LEAPアプローチとCDP水セキュリティ質問書の比較分析に関する報告書等は発行していませんが、両者には既に共通する要素があることはわかっております。予定されている質問書統合の過程において、LEAPアプローチとのギャップを埋める方向です。

Q. LEAPアプローチとCDP気候変動の生物多様性モジュールはどの程度関連性があるのでしょうか。

A. LEAPアプローチと2021年フォレスト質問書との比較分析において、同フォレスト質問書でカバーされていなかった項目、例えば、L2（生態系の状態の把握）やL3（優先地域の特定）、E1（生態系への影響と依存の評価）に関する質問が、2023年の気候変動質問書の生物多様性質問の方に含まれる予定となっております。なお、具体的な質問案については、本ウェビナー資料のスライド19をご確認ください。

よくある質問



Q. 2023年気候変動質問書の生物多様性に関する質問（C15.3や15.4）は採点対象になりますか。

A. スコアリング（採点対象）となるか否かについては、今後公表される2023年スコアリング基準をご確認ください。

Q. LEAPアプローチなどTNFDを意識した設問は、今後CDPの（フォレストではなく）気候変動の設問に盛り込まれていくという理解でよろしいでしょうか。

A. これまでのところ、CDP質問書の、TNFD・LEAPアプローチへの整合は、気候変動、フォレスト、水セキュリティの質問書の全てにおいて考慮されています。今後、質問書は統合の方向ですので、それまでは、引き続き、適当とされる各質問書において質問の追加、改定等が行われる予定です。

Q. 質問書統合後は、現在水セキュリティやフォレストへの回答要請を受けていない企業もそれらへの回答が必要になるのでしょうか。

A. 質問書回答要請企業、またその選定基準については、毎年改定を行っており、統合時点での回答要請企業については現時点では未定となっております。

よくある質問



Q. 質問書が2024年以降に統合された場合、すべての質問に回答する必要があるのでしょうか。事業内容に応じて選択回答してよいとされるのでしょうか。

A. 現時点では、CDP質問書は、すべての質問に回答する必要はありませんが、回答内容については、スコアリング基準に基づき採点が行われ、A～Dのスコアが付与されます。統合質問書への回答のスコアリング基準や採点システム等については、現時点では公開されておられません。

Q. 2023年CDP気候変動質問書：C15生物多様性の詳細情報が掲載されているリンク先をご教示頂きますでしょうか。

A. 2023年CDP気候変動質問書案につきましては、コンサルテーションは終了しておりますが、最終版は、今後、公開される予定です。コンサルテーション時に共有された2023年CDP気候変動質問書案へのリンクにつきましては、[こちら](#)となります（英語のみ）。C15に関する説明については、本ウェビナーสライド19をご参照ください。